

## Comparing the Perception of Dentists and Lay People to Altered Esthetics Vincent O.Kokich jr /H.Ausman Kiyak / Peter A. Shapiro

J Esthet Dent 1999;11:311-24.

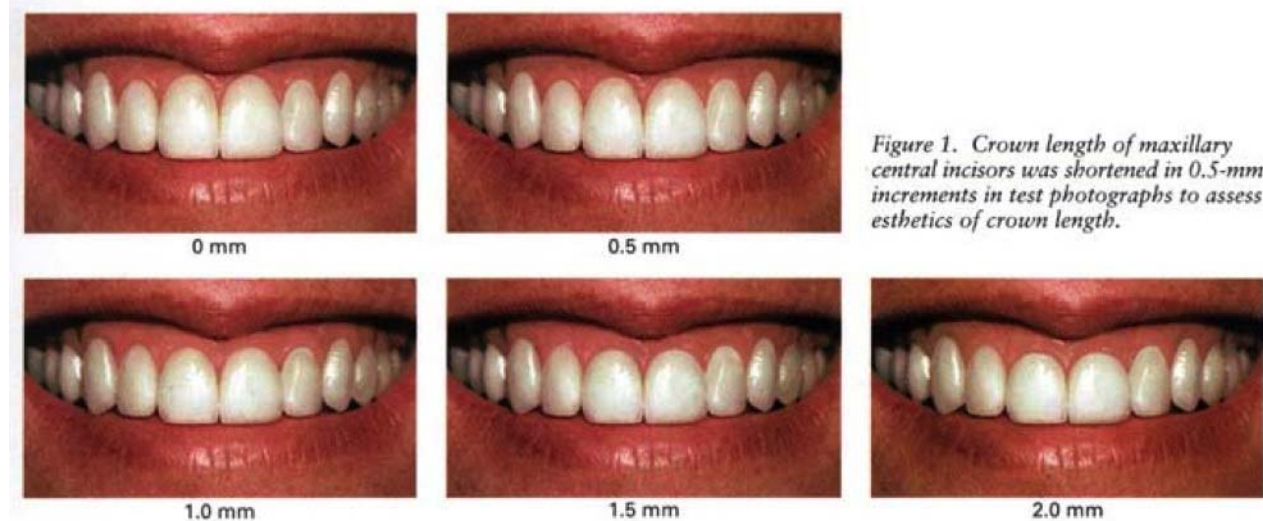
### 目的

前歯部において、周囲組織との関係、歯のサイズと配列についてその変化が一般人や歯科関係者にとってどう認識されるかについての研究

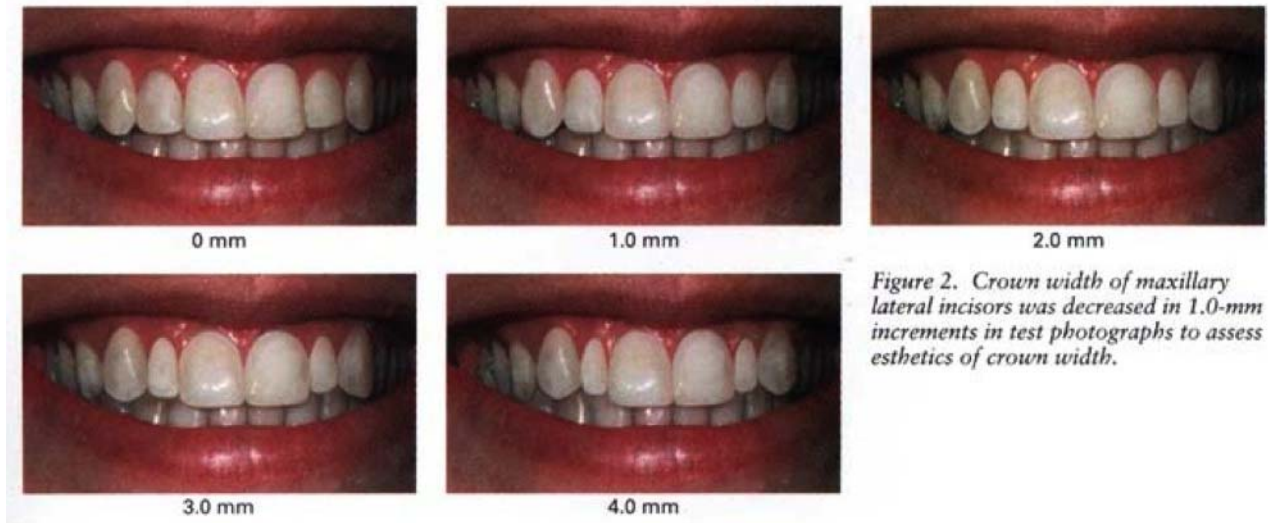
### 材料と方法

矯正歯科医、一般臨床医、一般人に対して以下の事項について少しずつフォトショップ加工したスマイル写真について審美的に容認できるかを質問し回答を得た。

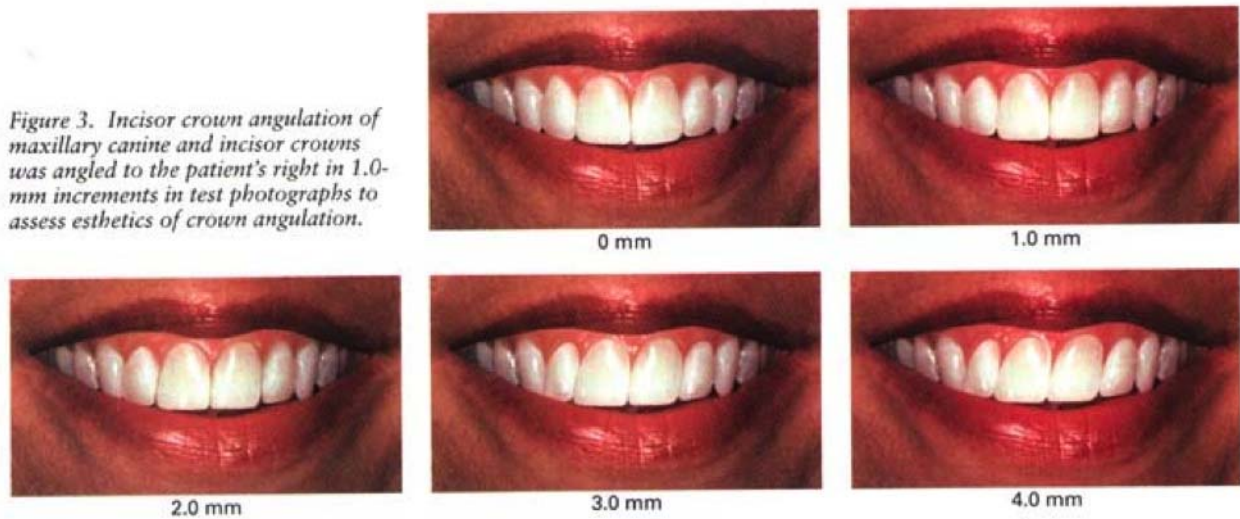
#### 1) 両側中切歯歯冠長



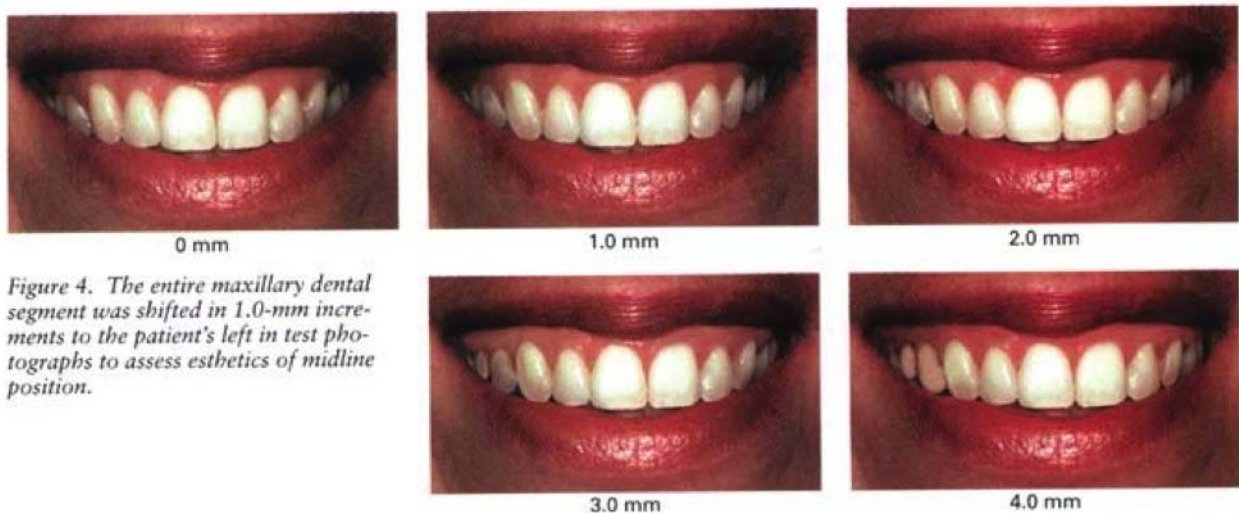
2) 両側側切歯歯冠幅径



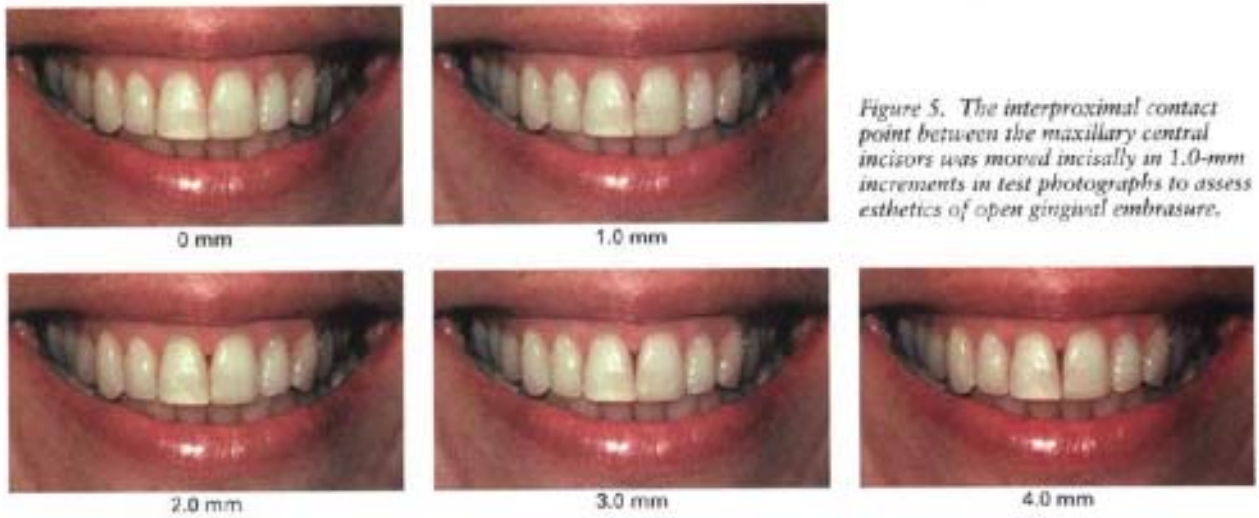
3) 切歯歯軸傾斜



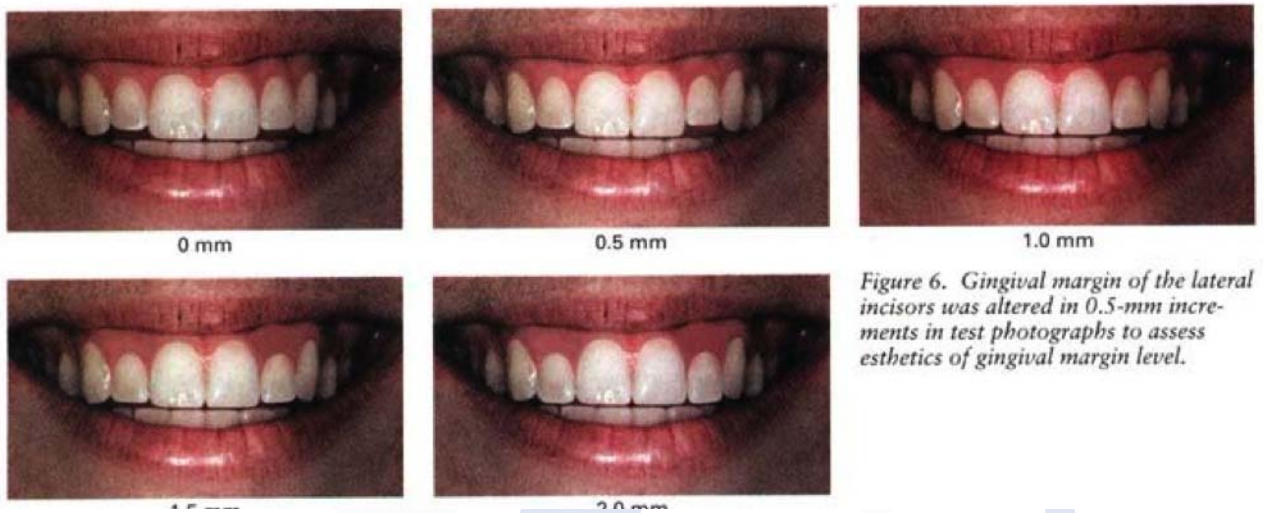
4) 正中のずれ



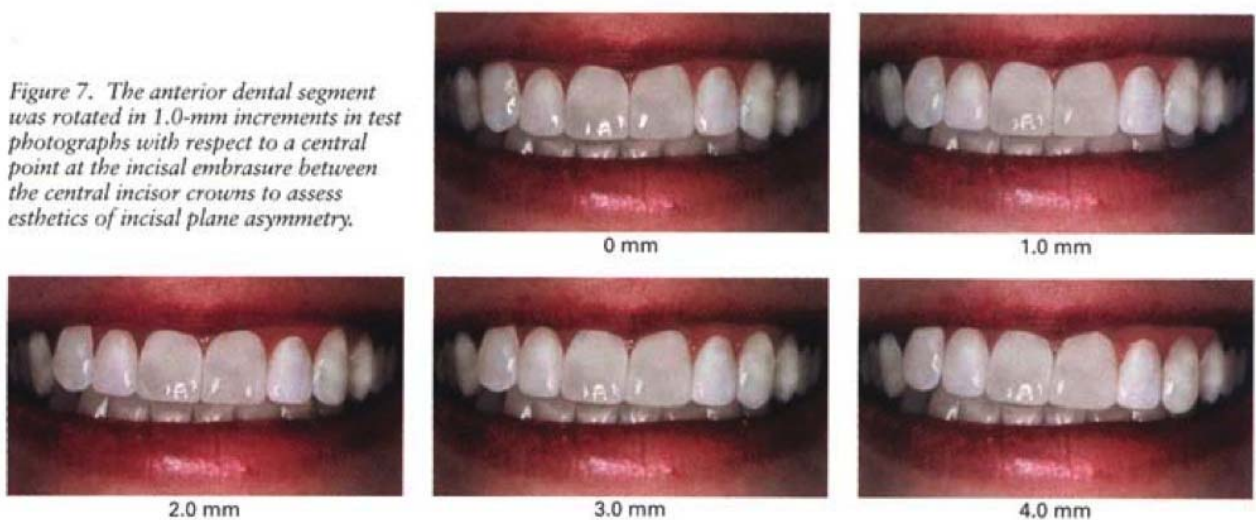
5) 正中歯冠部鼓形空隙



6) 側切歯歯肉縁の高さ



7) 切歯平面の傾き



8) 歯肉縁と上唇との距離

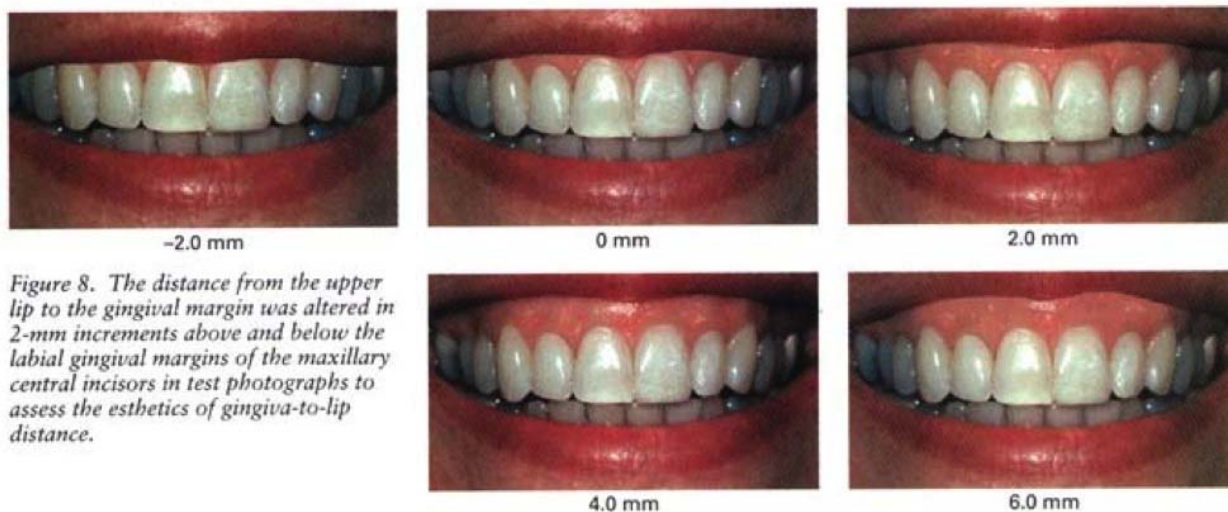


Figure 8. The distance from the upper lip to the gingival margin was altered in 2-mm increments above and below the labial gingival margins of the maxillary central incisors in test photographs to assess the esthetics of gingiva-to-lip distance.

**結 果**

結果をグラフと表に示す。

正中のずれは矯正医で4mm 離れて初めて審美的でない判断したが多くのグループはその変化を認知できなかった。すべてのグループで切歯歯軸傾斜を2mm で審美的でない判断した。矯正医と一般歯科医は、切歯平面の傾きや側切歯歯冠幅径の狭小さを、それぞれ1mm、3mm で審美的でないとした。一方一般人ではそれら項目に対しそれぞれ3mm、4mm にならないと審美的でない認知できなかった。歯間鼓形空隙量、および歯肉縁と口唇の距離に関するしきい値は矯正医とともに2mm である一方、一般歯科医、一般人では歯間鼓形空隙量で3mm、歯肉縁と口唇の距離では4mm であった。

TABLE 1. THRESHOLD LEVELS OF SIGNIFICANT DIFFERENCE.			
Parameter	Orthodontists	General Dentists	Lay People
Crown length (mm)	1.0	1.5	2.0
Crown width (mm)	3.0	3.0	4.0
Incisor angulation (mm)	2.0	2.0	2.0
Midline (mm)	4.0	ND	ND
Open gingival embrasure (mm)	2.0	3.0	3.0
Gingival margin (mm)	ND	ND	ND
Incisal plane (mm)	1.0	1.0	3.0
Gingiva-to-lip distance (mm)	2.0	4.0	4.0

ND = nondetectable.

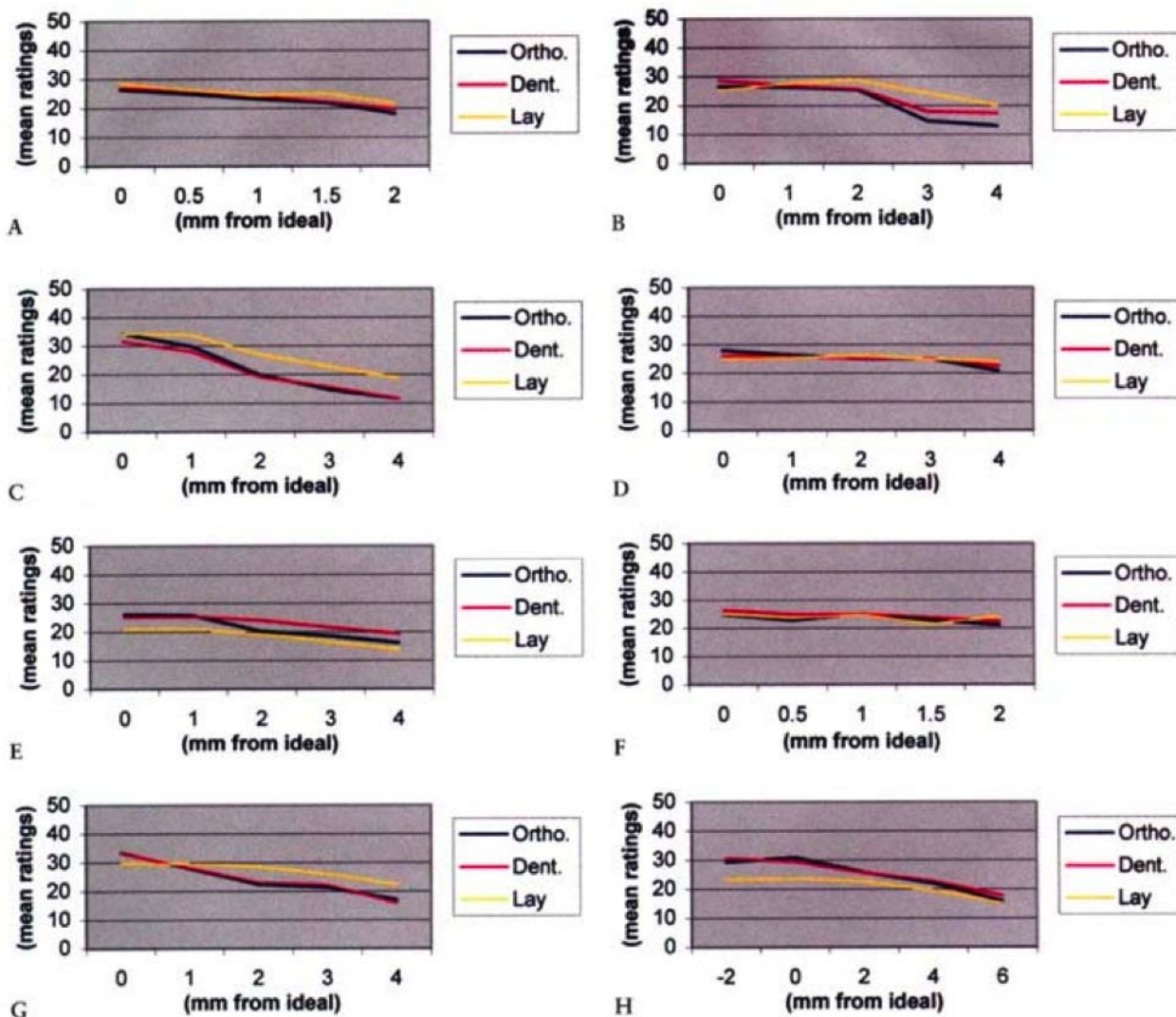


Figure 9. Graphic illustration of questionnaire results. A, Crown length; B, crown width; C, incisor crown angulation; D, midline; E, open gingival embrasure; F, gingival margin; G, incisal plane; H, gingiva-to-lip distance.

## 結 論

一般人は、切歯歯軸傾斜、歯肉縁の高さの項目以外はすべて非審美的であると認識するレベルは矯正医よりも低かった。矯正医は歯肉縁の高さの項目以外はすべて他のグループより審美性の差異について鋭敏である。歯の審美性は項目によってはわずかに外れていても患者にとっては重要関心事でないかもしれない。

## 報告の考察

本研究では口唇までの範囲であり、鼻、頤、などが写真情報に含まれていない実験であり限界があるものの、まず呈示された写真のうち、対照的に変化させた項目では、大きく変化させても審美的に劣るとはあまり認識にくいようである。また対称のための基準線としての正中線にしても、垂直軸に平行であれば多少の変化は審美的に容認できるようである。一方歯軸傾斜や平面の傾斜に対してはどのグループでも審美性の変化に鋭敏であるように解釈できる。

報告者 南 昌宏